

令和 7年4月4日

二本松市議会議長 様

会 派 名 令和創生の会

代表者名 本多 俊昭



視 察 研 修 報 告 書

当会派において、下記により視察研修を実施しましたので報告いたします。
記

1 期 間 令和 7年 3月26日 (水) ～ 27日 (木)

2 視察地及び視察内容

① 第9回全国自治体議会改革推進シンポジウム

(開催地 都ホテル四日市4階)

② 四日市市直営の産業振興の拠点の現状について

(開催地 四日市市地場産業振興センター)

③ _____

(開催地 _____)

3 参 加 者

① 本多 俊昭 _____ ② 小林 均 _____

③ _____ ④ _____

⑤ _____ ⑥ _____

⑦ _____ ⑧ _____

4 研修行程 別紙のとおり



(別紙 1 - 2)

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 令和創生の会
氏 名 本 多 俊 昭

○ 月 日 令和 7 年 3 月 2 6 日 ～ 2 7 日

○ 場 所 ①都ホテル四日市 4 階「伊勢の間」、「鈴鹿の間」
②四日市市地場産業振興センター（じばさん）

○ 内 容 ①第 9 回全国自治体議会改革推進シンポジウム・交流会
②四日市市直営の産業振興の拠点の現状について

○ 視察・研修の感想

※基調講演では、議会の議員構成は、住民の構成と比較して女性や 60 歳未満の割合が極めて低いなど、多様性を欠く状況が続いている。また、近年の地方議会議員選挙においては、投票率の低下や無投票当選の増加の傾向が強まっており、住民の議会に対する関心の低下を指摘せざるを得ない。とりわけ、女性議員が少ない議会や議員の平均年齢が高い議会において無投票当選となる割合が高い傾向にあり、議会が性別や年齢構成の面で多様性を欠いていることは、繰り返される一部の議員の不適切な行為と相まって、住民の議会に対する関心を低下させ、住民から見た議会の魅力を失わせていると考えられる。本来、議会とは、意見は違っていても、お互い仲間意識をもって妥協しつつ物事を決めていく場所だったはずであり、異物を排除し仲間だけでやっていた取り決め方を改めて、多様な人がリスペクトしあって物事を決める場所にしていけるかどうか。それが、これからの社会にとっても議会にとっても大変重要になっている。感情的にならず、制度や仕組みを使い、いかに課題を乗り越えていくか、私たちに問われていると感じてきました。

また、パネルディスカッションにおいては、パネリスト 5 名の議員の方々の話を聞く機会を頂きました。特に印象に感じた議員

を紹介します。富山県議会奥野副議長からは、“政治への新しい入口を”として・自民党富山県連「女性議員の育成・登用プロジェクトチーム」を発足 2024 年 ・自民党富山市連「女性議員候補者登録制度」創設 2025 年と女性議員の人材発掘・育成に取り組んでいること。次に、岩手県議会吉田議員からは、議員になってから妊娠、出産、産休と大変苦労したが、出産育児関連の規則改正による議会改革に取り組んだこと。次に、四日市市議会の辻議員からは、会社員を辞めずに議会議員と会社員を両立しているとのこと。これはまさに企業経営者の理解が頂けない限り両立は困難であります。

※また、交流会においては、三重県議会、四日市市議会、広島県議会、名古屋市議会等と話す機会がありました。感じてきたことは、都市部と地方部の議会での違いは、都市部では女性議員や若い議員が多く無投票は皆無とのことで地方部との違い、議会議員としての矜持を改めて感じ取って来ました。

※じばさん(四日市市地場産業振興センター)を視察して、一階フロアには、三重県内の各自治体の地場産品、特に有名なのは、全国 3 番の伊勢茶、松阪市の松坂牛、地酒、陶器、和菓子等が展示販売させておりました。2・3 階は貸事務所、4 階～6 階は、研修室、情報交換室、展示室でした。

○ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

地方議会議員選挙の投票率は年々下がってきており、地方議会では無投票当選が増加し、益々議会は住民に縁遠い存在になり、また急激な人口減少も重なり、立候補しようとする人がいなくなる。将来的になり手不足を乗り越えて定員不足が心配される。本市議会では、昨年、議員定数等調査特別委員会設置して協議を重ねている。また、市民の直接の声を聞くとして市民アンケートを実施して集計結果 も出ていることから、議員と市民の声であるアンケートに相違があってはならない。

(別紙 1 - 2)

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 令和創生の会

氏 名 小林 均

○ 月 日 令和 7 年 3 月 26 日 13 時～16 時 45 分

○ 場 所 都ホテル四日市 4 階「伊勢の間」

○ 内 容 第 9 回全国自治体議会改革推進シンポジウム

「議会改革の推進と女性や若者等多様な人材の活躍」

○ 研修の感想

駒澤大学名誉教授 太山礼子氏の基調講演では、〇議会の役割はますます重要になっている — 持続可能で個性豊かな地域社会を形成してゆくためには、地域の多様な民意を集約し、広い見地から個々の住民の利害や立場の違いを包摂する地域社会の在り方を議論する議会の役割がより重要に。〇地方議会の未来には「議会不信」と「なり手不足」という 2 つの暗雲が漂っている。〇議会の信頼回復への道筋①多様な住民の声を代表する。②住民の意見を審議に反映する。③住民と情報を共有する。①に必要な改革は — ア、人材を育てる イ、立候補を支援する ウ、選挙制度を見直す エ、ハラスメントの防止 ②に対する具体策 — ア、首長提案の精査と修正 イ、政策条例 住民からのアイディアの活用～請願・陳情～ ウ、行政監視の通年化と住民との協働 エ、予算・決算審議の充実 ③情報「提供」ではなく、「共有」を — ア、通年議会の導入による審議のスケジュール化、住民にとってわかりやすい活動 イ、住民からの情報を生かした活動により政策のサイクルを作る 〇社会教育の場としての議会 中学生・高校生の見学・傍聴—社会科教育との連携、地元の大学との連携等

パネルディスカッション

①富山県議会議員 奥野詠子氏 2011 年 30 歳で初当選、富山県議会 第 125 代副議長、自民党県連総務会長 〇女性の政治への新しい入り口として、2020 年 4 月に自民党女性議員有志による「富山女性政治塾」を設立、2024 年に自民党富山県連で「女性議員の育成・登用プロジェクトチーム」を発足、2025 年 2 月に自民党富山市連「女性議員候補者登用制度」を創設など女性議員の人材発掘・育成に取り組んでいる。

②岩手県議会議員 吉田敬子氏 2010年32歳で初当選 ○2018年5月に岩手県議会で初めての妊娠・出産 ― 当時は岩手県議会規則に産休期間の明記がなかった。その後出産育児関連の規則改正による議会改革を進める。2019年8月2日～議会規則の改正（議員の欠席理由に育児、看護、介護、葬儀、配偶者の出産補助を追加）2021年3月30日～議会規則の改正（産休期間を明記）2022年4月1日～傍聴規則の改正（年齢制限を撤廃、乳幼児や小学生も可能に）2024年12月～傍聴環境の整備（簡易ベビーベット、パーテーション等の設置）2025年9月～オンライン委員会

③登別市議会議長 辻弘之氏 2007年26歳で初当選、現在も医療機関・福祉施設の現場マネージャー ○女性、若手、政治未経験者、サラリーマンから事業者まで多様なバックグラウンドをもつ議員が個性を爆発させて活動できる議会の実現意見交換会のチラシ配りをしたり、地元高校や専門学生に参加案内をしてみると、突然、地元の中学生たちが見学に来てくれたり、意見交換会の内容、マチの課題に対する気づきが大きく広がることになった。2023年統一地方選挙 北海道内5市48町村が無投票うち11町村で定数割れ、登別市も無投票

④四日市市議会議員 辻裕登氏 2023年33歳で初当選 現在も自動車部品メーカー技術職を兼務 ○会社員議員を続をけられる要因 ―①会社が副業を認めている②在宅（リモート）勤務、時間有給制度、外出制度③議会でもリモートが認められている④会社、職場から理解を得られている ○会社員議員を確保するには①各自治体（議会）から企業側への理解を求める②ビジネスマンでは体験できない経験ややりがい等、議員の魅力発信③調整会議などのリモート対応など議会側の理解④会社員議員の周知を図る

⑤三重県議会議長 稲垣昭義氏 2003年30歳で初当選 ○多様な方々に議会・議員への関心を持ってもらうために①みえ県議会出前講座（学校からの申し込みを受けて議員が学校を訪問して説明）②みえ高校生県議会（令和6年8月21日開催）○正副議長が県内4経済団体を訪問し、「立候補に伴う休暇制度の新設」、「議員との副業・兼業の容認」を要請 ○ハラスメント防止対策の推進（条例を制定済）と女性議員ネットワークの形成（市町議会議員も含む）

○ 研修の成果、市政への反映等

※研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

「議会不信」と「なり手不足」という2つの暗雲を晴らすためには、多様な住民の声を代表し、住民の意見を審議に反映させ、住民と情報を共有することが必要と感じた。三重県議会の高校生県議会の取り組みは本市でも開催の検討をしよう。また、本市でも出産育児関連の議会規則の改正が必要になると思う。

(別紙 1 - 2)

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 令和創生の会

氏 名 小林 均

○ 月 日 令和 7 年 3 月 2 6 日 17 時～18 時 30 分

○ 場 所 都ホテル四日市 4 階「鈴鹿の間」

○ 内 容 第 9 回全国自治体議会改革推進シンポジウム交流会

○ 参加の感想

交流会では、岩手県議、広島県議、三重県議会事務局課長、四日市市議、三重県の町議の人たち等と語り合う機会を持つことができました。岩手県議は、シンポジウムでパネリストを務めた方で、岩手県議会で初めて妊娠・出産を経験し、その後、出産育児関連の規則改正などの議会改革を推進したとのことでした。また、四日市市議会では、議員定数 34 人中、女性議員は 10 名と約 3 割を占めているとのことで、本市との大きな環境の違いを実感したところです。交流会に参加して、それぞれの市町村で抱える課題解決に向けて個々の議員が真剣に取り組んでいる状況が感じられました。

○ 参加の成果、市政への反映等

※参加の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

議員のなり手不足が騒がれる中、人口規模は違うが、四日市市のように女性議員や 30 代の若手議員が多くいる市議会も存在する。本市でも女性議員や若い世代のサラリーマン議員等が参画できる様、出産育児関連の規則改正やリモート会議の推進等を行うべきと思う。

(別紙 1 - 2)

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 令和創生の会

氏 名 小林 均

○ 月 日 平成 7 年 3 月 27 日

○ 場 所 四日市市地場産業振興センター (じばさん)

○ 内 容 四日市市直営の産業振興の拠点の現状について

○ 視察の感想

現在の四日市市地場産業振興センターは、1987年に三重県の北西地域の5市5町の寄付で公益財団法人として開館し、1階では地場産品を販売する「名品館」、2階から6階までは、貸会議室や研修室として地場産業振興のために利用されてきた。しかし、厳しい経営状況が続き、2022年に公益財団の解散に至った。その後2022年の4月から四日市市が引き受け、四日市市の公共施設として運営されている。施設の中、特に1階「名品館」を視察してきたが、商品の陳列に工夫が見られず、ただ地場産の特産品を並べてあるだけで、顧客の動線への配慮や、商品の物語性の発掘など、様々な面で検討が必要だと感じた。また、5階、6階の研修室・フロア等は、平日の午前中から利用されており、人の出入りも多いように感じた。

○ 視察の成果、市政への反映等

※視察の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

本市においても二本松城報館など、市直営の施設や、安達ヶ原ふるさと村など指定管理者に運営を任しているものなど様々な公共施設があるが、入館料、商品販売など収支が明確に表れる施設については、「じばさん」のように、市独自での運営にこだわらずに、民間の知恵をどんどん取り入れていくことが必要だと思った。また、やっかいな施設の受け入れに関しては、一度立ち止まって、その将来性、維持管理費の計算等をしっかり検討し、将来的な市民の負担にならない様にするべきと思った。

令和創生の会 視察研修 行程表

視察先	第9回全国自治体議会改革推進シンポジウム・四日市市地場産業振興センター
期間	令和7年3月26日(水)～3月27日(木)

日付	時刻	スケジュール	メモ
1 日 目	3月26日 (水)	7:17 二本松駅～郡山駅(07:40着)	新幹線やまびこ 122号
		7:54 郡山駅～東京駅(09:12着)	新幹線ひかり 637号
		9:33 東京 駅～名古屋駅(11:14着)	JR快速みえ 7号
		11:37 名古屋駅～四日市駅(12:09着)	※宿泊先
		12:10 昼食～都ホテル四日市(13:00～18:30)	三交イン四日市駅前
		18:40 ホテルチェックイン(徒歩5分)	TEL059-352-3535

日付	時刻	スケジュール	メモ
2 日 目	3月27日 (木)	9:50 ホテル～四日市市地場産業振興センター(徒歩)	JR快速みえ 8号
		10:00 四日市市地場産業振興センター(10:00～11:00)	新幹線ひかり 650号
		11:25 四日市駅～名古屋駅(12:05着)	新幹線やまびこ 67号
		12:05 昼食～名古屋駅(13:31発)～東京 駅(15:12着)	
		15:36 東京駅～郡山駅(16:56着)	
		17:07 郡山駅～二本松駅(17:30着)	